



風かおる
人が輝き
躍動するまち

とままえ

2

No. 618



まちひと百景

元担任の先生と一緒に

1月13日(日)に行われた平成25年成人式には、両地区の小学校、中学校そして苫前商業高等学校時代の担任の先生が参加し、新成人にお祝いの言葉を述べた。これまでも先生が参加したことはあったが、本年ほど小中高そろって先生が参加することは初めてだと思ふ。

今回参加した先生方も、ランドセルや制服姿だった教え子たちが一張羅に身を包み、元気な姿で再会できたことが何よりもうれしかったことが、笑顔あふれる表情から感じ取ることができた。

- 特集「ノロウイルス」… 2
- 平成25年成人式… 3
- 学社融合事業「邦楽体験」ほか… 4
- 羽幌警察署による110番教室ほか… 5
- 健康ばんざい… 6
- 国民健康保険ガイド… 7
- 国民年金・川柳… 8
- 学びの広場… 9
- 住まいる情報… 10～11
- 議会だよりNo.90… 12～17
- ちびっこギャラリー… 18

苫前町
議会だより
合併号

まちの人口

人口/3,528人 (男/1,666人:女/1,862人)
世帯数/1,635世帯 (1月31日現在)

特集 ノロウイルスによる感染性胃腸炎にご注意を!



ノロウイルスによる感染性胃腸炎が各地で発生

全国的にノロウイルスによる感染性胃腸炎が発生し、多くの患者が出ています。

ノロウイルスは、ワクチンなどの特效薬が無く、人や食品等から感染し、腸管で増殖すると言われ、潜伏期間(感染から発症までの時間)は24〜48時間、発症したときの主な症状は、おう吐や下痢、腹痛、発熱が1〜2日程度続きますが、感染しても発症しない場合や軽いカゼのような症状で終わることもあります。

健康な方は軽い症状で回復しますが、子どもや高齢者は重症化する場合があるので、注意が必要です。

ノロウイルスの感染を予防するには

ノロウイルスへの感染は、①人からの感染と、②食品からの感染が主なものです。

①人からの感染

- ・感染した人の便やおう吐物などから人の手を介して二次感染する場合。
- ・家庭などで感染した人のくしゃみなど飛まつしたものにより感染する場合。

②食品からの感染

- ・感染した人が調理するなどして汚染された食品を食べたことによる場合。

・ウイルスが蓄積した一枚貝などを加熱不十分な状態で食べた場合。

では、これらノロウイルスによる感染を防ぐためにはどのようにしたらよいのでしょうか?

第一 手洗いをしっかりと行いましょう。

手洗いはノロウイルスだけでなく、カゼなどにも効果的ですが、正しい方法で洗うことが必要です。特に食事前やトイレの後、調理の前やその後石けんや手の甲、指先、指や爪の間そして手首も忘れずに洗い、温水による流水で十分に流しましょう。

手を拭くときは、家族でタオルを使い回しせず、個別にタオルを用意するか、ペーパータオルを使用しましょう。エタノールなどの消毒液は、ノロウイルスには効果がないとされていますので、ご注意ください。

第二 一人からの感染を防ぐために

家庭内でノロウイルスに感染した場合には、感染した人の便やおう吐物、くしゃみなどの唾液からの飛まつ感染などに注意が必要です。

床等に飛び散った感染者のおう吐物や便を処理するときには、使い捨てのエプロン、マスク、手袋を着用し、汚物中のウイルスが飛び散らないよう吐ぶつや便をペーパータオル等で静かに拭き取ります。

拭き取っただけでは感染力の強いウイルスが残る、乾燥後に空气中を漂い感染する可能性もあるため、その場所を次亜塩素酸ナトリウム(塩素濃度約500ppm)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。

それらの処理したペーパータオルや拭き取った布、エプロンなどはビニール袋に密閉し廃棄します。

第三 食品からの感染を防ぐために

特に高齢者や子どもなどの抵抗力の弱い方には、加熱が必要な食品は中心温度が85度以上で1分以上の加熱をしないと感染のリスクは減ると言われています。

また、まな板や包丁などの調理器具も洗剤などでしっかりと洗浄した後、次亜塩素酸ナトリウム(塩素濃度200ppm)で浸すように拭くか、85度以上の熱湯で1分以上加熱することが有効とされています。

ノロウイルスの感染が疑われる場合には

ノロウイルスの感染に似た症状が表れた場合は病院に受診しましょう。

特に体力的に弱い乳幼児や高齢者は脱水症状や体力が消耗しないよう、水分と栄養の補給を充分に行いましょう。脱水症状がひどい場合には病院で水分を補給するための輸液などの治療も必要となります。

そして、家族内に症状がうつらないよう上記の対応を行います。感染性胃腸炎や食中毒に関する相談がある場合は保健所へご連絡ください。

ノロウイルスに関する相談は

●留萌保健所

0164(42)8324(感染症)
0164(42)8331(食中毒)

●JA苫前厚生クリニック

0164(65)3535

●苫前クリニック

0164(64)9070

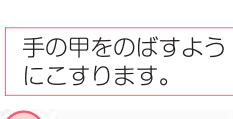
正しい手の洗い方

手洗い前に

- ・爪は短く切っておきましょう
- ・時計や指輪を外しましょう



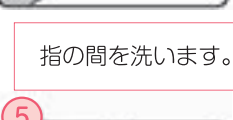
流水でよく手を濡らした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



手の甲をのばすようにこすります。



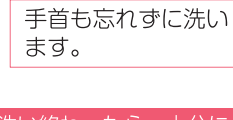
指先・爪の間を念入りにこすります。



指の間を洗います。



親指と手のひらをねじり洗います。



手首も忘れずに洗います。

洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かしましょう。

厳しさに負けず、困難に立ち向かえ—新成人おめでとう—

平成25年 苫前町成人式



1月13日(日)午後1時から公民館において平成25年成人式が挙行された。

今年の対象は男女あわせて40名のうち、この日は男性が14名、女性が16名の計30人が大人の仲間入りをはたした。

受付を済ませた新成人たちは、色とりどりの振り袖やスーツ、羽織、袴に身を包み、公民館エントランスホールで久しぶりに会う友人と笑顔で談笑する姿や友人同士で写真撮影する姿があちらこちらで見られた。

本年は成人式実行委員会のメンバーである新成人の大矢根未来さん、水野竜太さん、成田裕也さんの司会進行で進められた。

式典では式辞で岡田裕幹教育委員長が「皆さんはこれまで積み上げてきた知識や経験を進化させ、自らの生き方を探求して欲しいが、人生はままならないものである。人生の先輩方の話を聞き、自分の血と肉にして下さい。また、次代を担う皆さんにはイノベーションの考え方を取り入れて自分の人生に、地域の担い手として生き方や職場の環境改善など積極的に考え活躍を」と新成人にエールを送った。

新成人を代表し、逢坂拓人さんと香西志保さんが「どのよう

として働いている大沼昇平さんが「漁師として舟に乗っているが仕事の厳しさから、自分には向いていないのではと思った時期もあるが、今では仕事にも慣れ、やりがいを感じている。危険と隣り合わせの仕事だが、充

分気をつけながら仕事をを行い、早く一人前の漁師になれるようがんばりたい」と、旭川市内の専門学校に通う久野茜さんは「努力家の父とたくましい母のもとに生まれたことに、自分は幸せ者だと離れてから気づいた。福祉専門学校に通っているが、将来は一人でも多くの人の役に立てるよう、誰かの笑顔のために働くことができればと思っています。自然が豊かで人と人のつながりが深く心あたたかい

また、この成人式に当時新成人を受け持った小中高校の教諭も参加、立派になった教え子を目の前にお祝いのメッセージを送ると、新成人も笑顔を浮かべながら当時のことを振り返っていたようだ。

森利男町長は「社会の中で何か自分に役立つことはないかと考えられる社会的な自覚を持つた人間になってほしい。そのためには第一に偏見のない人に、第二に地球規模でものを考えられる人に、そして第三にすべての面でバランスの取れた人になってほしい。今は体力、気力も全開にできる時期であるため、若いときは失敗を恐れず、何事にもチャレンジと社会体験をしてほしい」と、星野恭司町議会

議長も「人は一人で生きているのではない。社会を形成し、多くの人々の知恵を寄せ合い、助け合って生きている。皆さんも人と人との結びつき、地域の繋がりの大切さを改めて実感されたのではないかと思う。まさに絆と感謝の気持ちが大切である。どんな時も自分の将来像をしっかりとイメージして、ゆるぎない信念と決意で進んでほしい」と祝辞を述べた。

成人意見発表では地元で漁師

また、この成人式に当時新成人を受け持った小中高校の教諭も参加、立派になった教え子を目の前にお祝いのメッセージを送ると、新成人も笑顔を浮かべながら当時のことを振り返っていたようだ。



リズムをあわせてバチさばきも軽快に ～古丹別小学校で学社融合事業「邦楽体験」～



12月19日(水)に古丹別小学校(高谷典義校長)で学社融合事業「邦楽体験」として太鼓の演奏体験が行われ、同校の3年生から6年生までが指導を受けた。講師は豊饒太鼓保存会で活動していた花井秀昭さん、倉田浩司さん、柴田雅紀さんの3名が「北のにぎわい」「三宅太鼓」などの指導を行った。

6年生の指導では、花井さんたち講師から「8コ数えてから叩きはじめてください」などと指示されると児童たちは、真剣な面持ちでバチを持つ手を動かしていた。

児童を代表して杉野佳奈さんは「中学校でも太鼓を実施するので、活かしていきたい。ありがとうございます」と3名の講師にお礼を述べた。

一足早いクリスマスプレゼントに大喜び! ～シダックスグループが昔前保育園児にお菓子を寄贈～

西川さんは「これから雪がたくさん降って寒くなるので、カゼをひかないよう元気に過ごしてください」と伝えると、嶋崎くんは「どうもありがとうございます」と深く頭を下げ受け取っていた。

園児たちも予想していなかったクリスマスプレゼントにニコニコ笑顔が見られた。

カラオケ店などを経営し、本町のとままえ温泉ふわたとの指定管理先である大新東株式会社親会社であるシダックスグループより昔前保育園児に一足早いクリスマスプレゼントが12月21日(金)に渡された。

大新東株式会社昔前支店の西川和幸さんより園児を代表して嶋崎瑠斐(るい)くんに渡された。



勉強終わらずぞ! ～冬休み学びの寺子屋が始まる～



児童・生徒が休みに苦手科目の克服や家庭学習の習慣化を目的とした「冬休み学びの寺子屋」が12月25日～27日の3日間、昔前地区はとままえ温泉ふわた、古丹別地区は町公民館で開催され、両地区の小学生をあわせて75名の参加があった。

夏休みと同様に、児童への学習指導と解説は、学校教育支援員2名と小学校・中学校の教員数名がサポートした。

古丹別地区では、池田文敏教育長は開催に先立ち「この学びの寺子屋をきっかけとして家庭学習するきっかけにしてほしい」と挨拶した。

この後、低学年と高学年・中学生の2クラスに分かれ、各自持ち寄った学校の宿題プリントや市販の問題集などに頭を抱えながら鉛筆を動かしていた。

今年も火災ゼロを目指して ～昔前町消防団出初式～

公民館での屋内式では、永年勤続や優良団員への表彰状伝達が行われた後、森町長からは「多忙な家業の傍ら献身的な活動に感謝申し上げます。本町での無火災は現在で907日と北留萌消防署管内で一番長い。災害に強い昔前町をつくるため一層の協力をお願いしたい」と激励した。

野外式では、人員点呼に続き、瀬川信昭団長のほか森利男町長、星野恭司町議会議長らが服装点検と閲団を実施、全団員が団旗を先頭に寒風が吹く中、古丹別市街地を分列行進した。

1月5日(土)に北留萌消防組合古丹別支署前で昔前町消防団出初式が開催、昔前・古丹別・力昼の各分団より55名の団員が参加し、昨年同様火災ゼロの決意を胸に地域防災への士気を高めた。



今年も無事故で。。。昔前救難所出初式



1月6日(日)に日本水難救済会昔前救難所(川村信介所長)の出初式が北るもい漁業協同組合昔前支所で開催された。

所員15名が整列、人員点呼を行った後、救命索発射銃(もやい銃)の発射訓練を実施。来賓等が見守る中、寒風吹き付ける海に爆音を響かせながら銃を発射、無事目的場所に着弾した。

訓練終了後、とままえ温泉ふわたでの屋内式では、川村所長が「昨年、昔前救難所の出動は1件もなく、無事故継続に尽力したい。平成25年度は増毛町で海難防止・水難救済センター全道大会が開催されるため、同センターの指導を仰ぎながら、訓練をつんでいきたい」と挨拶を述べた。

正しい110番通報の仕方などを指導～羽幌警察署による110番教室～



日付の語呂合わせから110番の日でもある1月10日(木)に役場大会議室で羽幌警察署による110番教室が開催され、地域住民など約20名が集まり開催された。

羽幌警察署の藤田利文地域係長より説明があり、110番の通報の際の注意点として「落ち着いて話をするとともに、110番は緊急を要する場合に使い、そうでないものは#9110番へかけてほしい」と述べた後、模擬110番として対話形式でやりとりを体験した。

また、「車のナンバーを覚えるのは大変なので、メルルなどに入力するなどのしつら保存や履歴が残るので「便利」と説明を加えるとともに、「年末から今年にかけて吹雪が多いため、事故件数が増えているので、注意してほしい」と注意喚起を行った。

苫前・羽幌・初山別フィルムコミッション表彰式を本町で開催

実行委員長からは「応募された作品などを使わせていただき、広く留萌管内中部地域をPRし、映画やコマリシヤルなどの誘致につなげていきたい」と挨拶、応募80作品の中から選ばれた入賞者に賞状と目録が手渡された。

本町からは古丹別在住の加藤興一さんの組写真が佳作に1枚を選んだ。(4枚のうち1枚を紹介)



佳作 加藤興一さん
「美しき豊かなる大地」

留萌管内中部地域に映画やコマリシヤルなどを誘致、地域の活性化などを目的に設立された「苫前・羽幌・初山別フィルムコミッション」が、苫前町・羽幌町・初山別村の自然・生活などを撮影した作品募集していたフォトコンテストの表彰式が1月12日(土)にそのまま温泉ふわっとロビーで開催され、入選者と関係者など20名が参加し行われた。

畳の上の格闘技の名にふさわしい熱戦を展開!

～第22回苫前町子ども交流カルタ大会・第33回留萌管内中部3町村子ども会かるた大会～



小学生の部
優勝：Aチーム
本田愛珠、吉川貴大、伊藤 楓
2位：Dチーム
3位：Bチーム
4位：Cチーム

中学生の部
優勝：Aチーム
鴨田祥宏、岸 仁美、高田里帆
2位：Bチーム

1月6日(日)に公民館で第22回目となる子ども交流カルタ大会が開催され、小学生12名、中学生6名が参加。小学生の部は4チーム、中学生は2チームが1試合ずつ試合を行い、残った札数で順位がつけられた。

参加者同士普段は和気あいあいとしていても試合が始まれば真剣そのもの。読みが始まれば背筋をピンと伸ばし正座で畳を叩き気合を入れながら真剣勝負が繰り返された。

また、1月27日(日)には苫前町公民館で第33回留萌管内中部3町村子ども会かるた大会が開催、本町から小学生、中学生の部より2チームずつ12名が参加した。

小学生の部は、羽幌町、初山別村あわせ9チームで行われ、苫前町海チームは1回戦、敗者復活戦で敗退した。苫前町空チームは1回戦で初山別Dに勝利するも、2回戦で優勝候補の初山別Aに敗退した。

一方、中学生の部も9チームで行われたが、1回戦で羽幌Bに、2回戦で天売に勝利するも、決勝トーナメント1回戦でこちらも優勝候補の初山別Aに敗退。3・4位決定戦でも羽幌Cに敗れ第4位となった。



長年、社会厚生委員を務めた佐武正幸さんに感謝状贈呈



1月21日(月)に町長室で本町の社会厚生委員として長く務められた九重に在住の佐武正幸さんに感謝状の贈呈が行われた。

佐武さんは昭和55年12月より社会厚生委員として32年余の間、地域社会及び住民福祉の増進のために民生委員児童委員も兼ねて務められ、平成24年12月末をもって退任されることとなった。

森町長から感謝状と記念品を授与された佐武さんは「これからも自分のできることがあれば協力していきたい」と述べ、森町長も「まだまだお元気であるため、ぜひこれからもいろいろな形でご協力いただければ」と述べた。